

# 刑 事 訴 訟 法

( Criminal Procedure )

3 学期 土曜 4・5 時限

授業時間：75 分×20 回

単 位 数：2 単位

履修年次：1 年次

担当教員：宮城啓子

研 究 室：教員研究室 13

---

## 授業の到達目標：

刑事訴訟法の理念と構造を理解させ、基本的な概念および知識を正確かつ確実に習得させるとともに、判例の発展を理解させることを目標とする。

## 授業概要：

刑事訴訟法の基礎理論、捜査、公訴提起、訴因、公判手続き、公判の裁判を内容とする。刑事実務において生じる具体的諸問題が、法理論によってどのように把握され、また、判例によってどのように解決されているのかについて、対立点を意識しながら整理し理解を深める。

## 評価方法：

学年末の筆記試験による評価 80%、授業への参加の態度の評価を 20%とした総合評価とする。

## 教科書：

池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義』（第三版）（東京大学出版会）

## 参考書：

井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選〔第九版〕』（有斐閣）

松尾浩也・井上正仁編『刑事訴訟法の争点〔第3版〕』（有斐閣）

## 授業計画：

### 第1回 刑事訴訟法の意義

隣接する他の法領域との関係を明らかにする。特に憲法との密接な関係を理解する。また、刑法・民事訴訟法・行政法などの各法領域と対比し、刑事訴訟法の性格を把握する。

### 第2回 刑事訴訟法の基本理念

刑事訴訟法の目的理念について検討する。刑事手続きに固有の真実発見という目的の意義を理解し、比較的新しいもうひとつの目的理念である適正手続きの保障の発展過程を概観する。二つの目的理念が異なる法体系から生じたものであることを意識した上で、その融合を掲げる刑訴法の目的理念の理解を深める。

### 第3回 当事者主義の基本構造

職権主義と対比して当事者主義構造の性格を把握する。両訴訟構造と事実認定のあり方、陪審制、参審制、裁判員制という素人の司法参加の形態との関連についても考察する。

### 第4回 刑事手続の関与者 (1) 検察官

検察官の職責および検察組織の特殊性を理解する。その上で、当事者主義構造における検察官の地位について検討する。

### 第5回 刑事手続の関与者 (2) 弁護士

弁護人の職責について理解する。検察官と対比させて、当事者主義構造における弁護人の地位を検討する。

### 第6回 刑事手続の関与者 (3) 裁判官 (4) 警察官

裁判官の職責について理解する。裁判官が構成する「公平な裁判所」とは何かについて、考察する。

警察庁と地方自治体警察という警察の組織について理解する。そして、警察官の活動として行政警察活動と司法警察活動という、それぞれ基本法理が異なる活動があることを理解する。

### 第7回 捜査総論

捜査の端緒を概観したのち、強制捜査と任意捜査の区別の基準について理解する。また、強制捜査と任意捜査の限界事例について、判例を中心に検討する。

### 第8回 被疑者の保全

对人的強制処分として、逮捕の種類と要件・手続を理解する。勾留の手続きと性格を理解し、全手続過程における被疑者の勾留の位置づけを検討する。

### 第9回 逮捕・勾留をめぐる問題点

身柄拘束下の取調べ固有の問題を検討する。別件逮捕・勾留の問題点と、余罪取調べの限界を理解する。

### 第10回 被疑者の防御権

弁護士との接見交通権の判例の発展過程を検討する。

### 第11回 証拠の収集と保全 (1) 对人的処分

被疑者および参考人の供述の採取を目的とする取調べと、被疑者および参考人の身体に対する物的証拠の採取としての、身体への搜索、検証(身体検査)について考察する。

### 第12回 証拠の収集と保全 (2) 对物的処分

令状による捜索・差押の対象の特定と明示の要件、および強制採尿、通信傍受、写真撮影の問題について検討する。

#### 第13回 証拠の収集と保全 (3) 対物的処分

令状によらない捜索・差押・検証の諸問題について検討する。

#### 第14回 公訴概説

訴追制度について、英・米・独のあり方を概観して、わが国の特性を理解し、国家訴追主義と起訴便宜主義の意義と機能を考察する。公訴提起の要件としての訴訟条件について考察する。

#### 第15回 公訴提起の方式と訴因

起訴状一本主義と訴因制度について理解し、起訴状の記載、訴因の特定、訴因と罪数の問題について考察する。

#### 第16回 公判手続き (1) 事前準備・冒頭手続き

各当事者の事前準備の内容について理解し、特に公判前整理手続における証拠開示の問題を検討する。冒頭手続きの流れを理解する。

#### 第17回 公判手続き (2) 証拠法

証拠裁判主義、自由心証主義、挙証責任等、証拠法の基本原理を理解する。

#### 第18回 公判手続き (3) 証拠調べ

各当事者による立証と職権による証拠調べについて基本的な問題を検討する。

#### 第19回 訴因の変更・最終弁論

立証の進展に伴って生じた立証のテーマとのずれをどのように処理するかという訴因変更の要否と可否の問題について考察する。各当事者の最終弁論について検討する。

#### 第20回 公判の裁判

実体裁判と形式裁判について検討し、一事不再理効・既判力と憲法上の二重の危険の禁止との関係について考察する。